

**「マイナビ 2024 年卒 大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査(12月)」を発表
「給料の少ない週休3日制」と「給料の多い週休2日制」では、約7割が週休2日制を希望
理由は、「将来への経済的な不安」や「仕事に時間をかけて早く成長したい」など
インターンシップや就活準備を通じて成長したと感じることは「主体性」が最多で28.7%**

株式会社マイナビ（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：土屋芳明）は、2024年3月卒業予定の全国の大学3年生、大学院1年生（1,950名）を対象に実施した、「マイナビ 2024 年卒 大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査（12月）」の結果を発表しました。

《TOPICS》

- ◆ 12月のインターンシップ累計参加率は前年比2.4pt増の88.1%で、前年同程度で推移【図1、2】
- ◆ インターンシップ参加や就活準備を通じて成長したと感じることは「主体性（物事に進んで取り組む力）」が最多。大学の授業やゼミへの参加にも良い影響があったと感じる学生も【図3、4】
- ◆ 「休みは多く、給料は少ない週休3日制」と「休みは少なく、給料は多い週休2日制」では、週休2日制を希望する学生が約7割に。「将来への経済的な不安」や「仕事に時間をかけて早く成長したい」などが理由に【図5、6、7】
- ◆ 新卒一括採用の制度について47.0%の学生が「肯定的である」と回答【図8、9】

【調査概要】

24年卒の12月時点でのインターンシップ累計参加率は前年比2.4pt増の88.1%で、前年と同程度の高水準となっている。また開催期間について「半日」の回答が前月より減少し、「1日」「2～4日」「5日以上」のプログラムに参加した割合が微増した。冬休み期間に差し掛かり、より中長期のプログラムに参加できるようになったと考えられる。【図1、2】

これまでのインターンシップ参加や就活準備を通じて自身の成長を感じたものとして、最も回答が多かったのは「主体性（物事に進んで取り組む力）」（28.7%）だった。学生からは「グループディスカッションを何度も経験する中で、授業でのプレゼンテーション準備の際、タイムマネジメントや役割分担をするなど、自ら動けるようになった」や「面接練習を重ねるうちに自然と力がついていた。成長に気づいたきっかけはゼミの先生から、『いつも率先して、行動してくれてありがとう』と言われたことだった」のように、学業へ良い影響があったとするコメントも寄せられた。【図3、4】

入社後、「週休2日制（週休3日制より休みは少なく、給料は多い）」と「週休3日制（週休2日制より給料は少なく、休みは多い）」を比較してどちらの勤務体系が良いかを聞いたところ、68.6%の学生が「週休2日制」と回答した。「ある程度の給与が見込めないと生活が厳しいため、現状では休みよりも給料を取らざるを得ない」のような経済的理由や、「仕事に時間をかけて、社会人として成長したい」という成長意欲が感じられる理由が見られた。一方、週休3日制を選択した学生からは、「副業・兼業や資格取得の時間に充てたい」という声や、人生100年時代を見据えて休息や健康を重視する声が上がった。【図5、6、7】

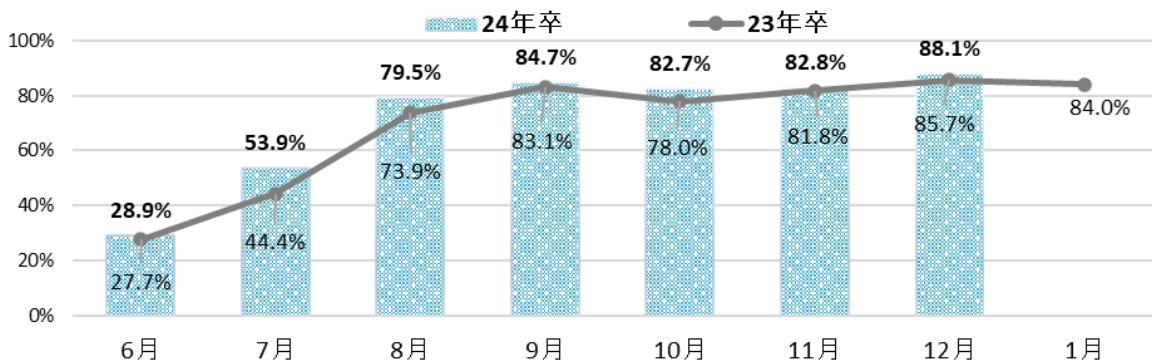
新卒一括採用制度に関する考えを聞いたところ、「肯定的」が47.0%（「肯定的である」（21.2%）と「どちらかといえば肯定的である」（25.8%）の合計）、「否定的」が10.8%（「否定的である」（2.3%）と「どちらかといえば否定的である」（8.5%）の合計）「わからない・どちらともいえない」で42.1%だった。肯定的な理由としては「同期と知り合うことができ、同じタイミングで研修などを経験できる」や「ある程度日程を決めないと学業が疎かになる」などの理由が挙げられた。【図8、9】

【調査担当者コメント】

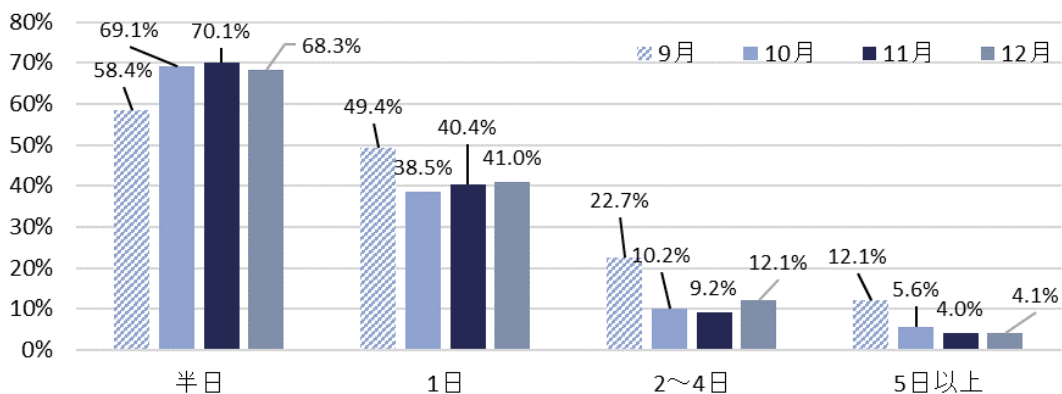
本調査では、休日と賃金の観点から、週休2日制か週休3日制どちらがいいかという質問をしましたが、物価高や貯蓄を気にするシビアな理由で、週休2日制を選択する学生が見られました。また新卒一括採用制度の是非については、学業との兼ね合いや海外との比較も交えながらメリットとデメリットを述べる学生の姿も見受けられ、社会的状況や自身の意向など踏まえて冷静に物事を捉えていることがわかります。インターンシップ参加や就活準備を通じて「主体性が増した」と感じた学生が多いという結果も出ましたが、このように物事を自分事として捉え進んで取り組む力も、就職活動に限らず今後さまざまな場面で重要になってきます。まもなく試験期間を終え春休みに入る学生も多いですが、就活準備や自身の将来についてより主体的に考え、取り組んでいってほしいと思います。

キャリアリサーチラボ 研究員 長谷川洋介

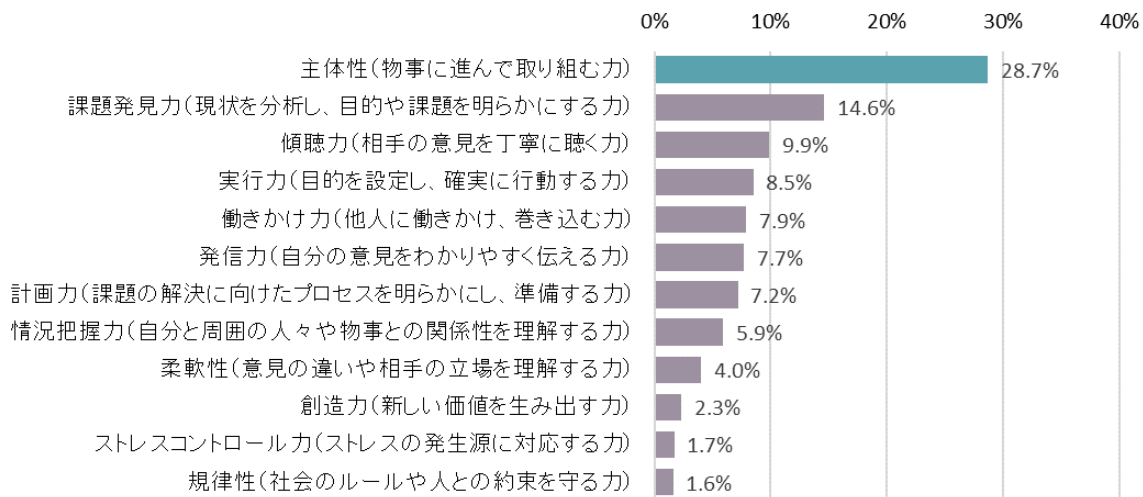
【図1】 <これまでに（累積で）>インターンシップ・ワンデー仕事体験参加状況



【図2】 参加したインターンシップ・ワンデー仕事体験の月別開催期間（すべて）



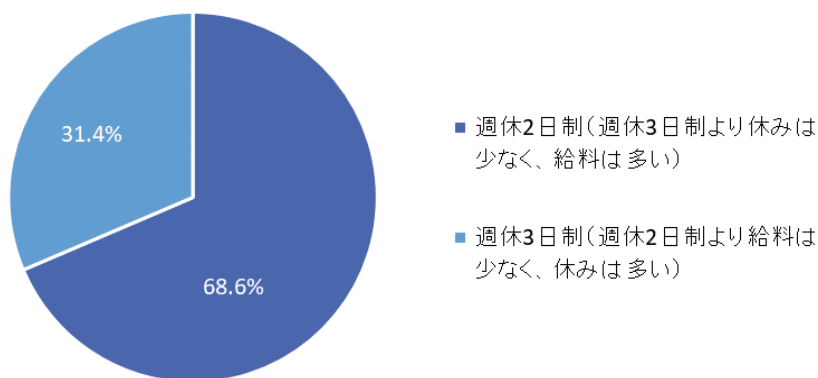
【図3】これまでのインターンシップ・就活準備を通じて、最も成長を感じるもの



【図4】「主体性」に成長を感じた理由やエピソード (自由回答)

属性	内容
文系女子	グループディスカッションを何度も重ねる中で、最初にミュートを外したり、中心となって進めることが多くなったから。例えば、授業でプレゼンテーションの準備をする時、リーダーがおらず、ぐだっていた。しかし、参加後、タイムマネジメントをしたり、役割分担をしたり、自ら動くことができるようになった。
文系女子	今までは「誰かがしてからくれるから」という他人任せだったが、グループ面接の練習などを通して、如何に自分を見せられるかという壁にぶつかった時、自分から行動したり、発言するような主体性があると気づき、面接練習を重ねるうちに自然と力がついていた。その力がついた事に気づいたきっかけはゼミの先生から、「いつも率先して、行動してくれてありがとう」だった。
文系女子	はじめは友達と一緒にならという条件でインターンシップに参加していたが、自分のための就職活動・インターンシップだという目的を思い出し、周りに頼らず自分が参加したいと感じた企業、説明会等に参加するようになったところに主体性における成長を感じた。
理系女子	見学会、就活イベント、情報収集など、就活は自分から進んで動かなければならないことが多いため、自分で計画を立てて、物事を進める力が養われたと思う。

【図5】以下の条件の場合、週休2日制と週休3日制のどちらの勤務体系が良いか



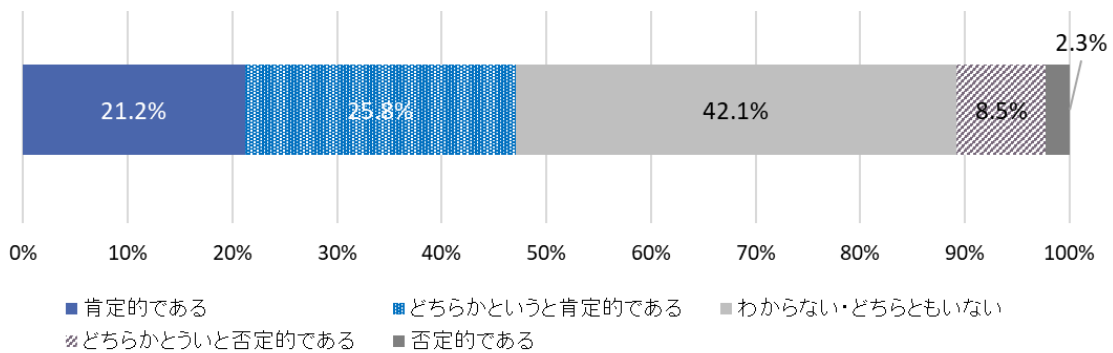
【図6】週休2日制を選んだ理由 (自由回答)

属性	理由
文系女子	金銭面での不安が大きいからです。物価が高が続くと思われている中で、ある程度の給与が見込めないと生活が厳しいため、現状では休みよりも給料を取らざるを得ない状況です。
理系男子	物価の高騰や定年後の貯金が危惧される今、給料が多く貯金できる環境が重要であると考えたため。
文系女子	1つは早く成長したいからです。可能な限り早い段階でキャリアアップしてより責任の生じる仕事を任せてもらえる存在になりたいからです。2つ目はより多くのお給料が欲しいからです。首都圏で働きたいと考えているので、地方勤務に比べて物価等の関係からお金は多いに越したことは無いと思うからです。
理系女子	まずはしっかりと仕事に時間をかけて、社会人として成長したいから。結婚や出産などでライフステージが変わったら、べつの勤務体系を希望するかもしれない。

【図7】週休3日制を選んだ理由（自由回答）

属性	理由
文系女子	お金を多く受け取れたとしても、働きすぎてストレスを感じてしまい、仕事の効率が悪くなりそうなので、給料が安くても自分の自由時間を確保した方がいいと考えた。また、社会人になると年休制度があると思うが、実際には使われない企業もあるとよく耳にするため、確実に休めるように、予め週休3日制がいいと考えた。
文系男子	休みが多い分副業や兼業がしやすそうだから。それによって、収入の低さはカバーできそうであり、自分のスキルアップの機会が週休2日制より多くなると思ったから。
理系男子	休みの日には日商簿記、FPなど資格取得に向けた学習をしたいため
理系男子	今求められているのは「身体・心ともに健康で長く働き続けることができる環境」であると思うから。
文系男子	人生100年時代といわれる中で、働く時間は年々増えていくことが予想されるため、楽しく健康であることが最も大切であると感じる。さらに、海外の事例を見ても自由度の高い職場の方が幸せ度が高く、経済力だけが幸せの定義ではないと感じるため。

【図8】新卒一括採用という制度についての考えに最も近いもの



【図9】新卒一括採用という制度についての回答別の理由（自由回答）

肯定的か否定的か	属性	理由
肯定的である	理系男子	新卒一括採用のメリットは同時期に同期と知り合うことができ、同じタイミングで研修などを経験できることであると考え。同じタイミングでのスタートであれば、同期の間での先輩後輩などの位置関係も気にせずに接することができる。
肯定的である	文系女子	ある程度日程を決めないと学業が疎かになる
肯定的である	文系女子	欧米の学生の就職活動の話などを聞くと、日本よりもシビアだと感じるため、日本のシステムのほうが、取り残される学生が少なく、社会も安定すると感じる。
どちらともいえない	文系女子	自分たちの身としては新卒一括採用の方が嬉しいが、既卒者の中で能力の高い人がいるから。
どちらともいえない	文系男子	就職氷河期など、年ごとの経済状況などに翻弄される世代が丸ごと一つ生まれたり、新卒時に就職活動がうまくいかないとその後のキャリアにまで影響がある、既卒者の就活が困難など、新卒一括採用制度に対する批判はよく耳にする。
どちらかという否定的である	理系女子	留学や病気など個人によって事情が異なる。年に一度のタイミングに合わせなければならないのは、窮屈な考えのように感じる。

【調査概要】「マイナビ 2024年卒 大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査（12月）」

- 調査期間／2022年12月20日（火）～12月31日（土）
- 調査方法／マイナビ2024の会員に対するWEBアンケート
- 調査対象／2024年3月卒業見込みの全国の大学3年生、大学院1年生
- 調査機関／自社調べ
- 有効回答数／1,950名（文系男子604名 理系男子480名 文系女子600名 理系女子266名）
- ※調査結果は、端数四捨五入の都合により合計が100%にならない場合があります。

※調査結果の詳細は会社HPのニュースリリース (<https://www.mynavi.jp/news/>) からご確認いただけます。

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社マイナビ
キャリアリサーチラボ 研究員 長谷川
Email : myrm@mynavi.jp

【当社に関するお問い合わせ先】
株式会社マイナビ
社長室 広報部 松田
Email : koho@mynavi.jp